

# 例外テーブルは ESA でどのように動作しますか。

## 目次

[はじめに](#)

[例外テーブルは ESA でどのように動作しますか。](#)

[割り当て操作](#)

[リジェクト操作](#)

## 概要

E メール セキュリティ アプライアンス (ESA) の例外表がどのようにはたらくかこの資料に記述されています。

## 例外テーブルは ESA でどのように動作しますか。

例外表は-動作の 2 つの異なる型との... e メールアドレスを-完全か部分的なリストしたものです: 割り当てかりジェクト。メール フロー ポリシーでは、チェックされるオプション「使用送信側 確認例外表」必要は他では例外テーブルエントリー一致しません。

## 割り当て操作

例外表の割り当てリストは送信側 DNS 確認をバイパスします。エンベロープ送信側のドメインか e メールアドレスが例外表にリストされている場合、送信側はエンベロープ送信側 e メールアドレスのドメイン名が解決されますかどうか ESA へメールを送信 することを続行することができます。これは他では確認されなくても) 送信側 DNS 確認がイネーブルになっているドメインが解決されますとき役立ち、( 内部からの例えば割り当てメールはまたはドメインをテストします。

送信側 DNS 確認が使用中のメール フロー ポリシーのためにイネーブルになってエンベロープ送信側のドメイン名が( 形式が間違っていないし、解決されます) 解決されます場合、メッセージは拒否されます。SMTP 応答の例はここにあります:

*SMTP code: 553*

*Message: #5.1.8 Domain of sender address <\$EnvelopeSender> does not exist*

エンベロープ送信側の e メールアドレスかドメインが割り当て動作の例外表にリストされている場合、送信側はメッセージの残りを続行できます (RCPT TO、DATA、等、およびメッセージの正常な処理は起こります: メッセージ フィルター、反スパム スキャン、等)。これは証明できない送信側のドメイン名にもかかわらずアプライアンスにメッセージを可能にします。たとえば、送信側は次の状況のもとで拒否されます:

これは拒否された送信側用のログのエントリです:

```
553 #5.1.8 Domain of sender address <user@example.com> does not exist
```

@example.com のための「割り当て」リストが追加される場合、送信側は許可され、このエントリはログに現われます:

```
mail from:<user@example.com>  
250 sender <user@example.com> ok
```

## リジェクト操作

メッセージはエンベロープ送信側が例外表のリジェクト リストと一致する場合拒否されます。デフォルトで、SMTP 応答は次のとおりです:

```
SMTP code: 553  
Message: Envelope sender <${EnvelopeSender}> rejected
```

「リジェクト」動作の user@example.com のようなリストがある場合、エンベロープ送信側が「user@example.com」拒否されるどこにであるかどのメールでも送信しました:

```
mail from:<user@example.com>  
553 Envelope sender <user@example.com> rejected
```